Z 第11号証の2

＜ ＞内は北林の注釈

H9．9．8．

ちゃんこ江戸沢　PM5：40より

小川からの特命の件

[redacted]、[redacted]、[redacted]、[redacted]、[redacted]、[redacted]→　Y　紹介＜で会った＞→小川へ報告

Y　とのやりとり――資料

「法論鉄則２３ヶ条」　S作制　Mとの法論マニュアル

――[redacted]の机の上にあった

渡辺入手→小川へ渡した

信濃町で待ち合わせ

ＳＰ　地下入り口からエレベーター＜に乗った＞

＜　Y　＞「ここが[redacted]さんのＤｅｓｋだよ」

――S班　　S [redacted]・Y

M　佐々木　　法論＜したことがあった＞

電話なる　＜　Y　＞「ちょっと待っててね」＜別の離れたデスクの電話を取るため移動＞　そのスキにカバンへ＜「法論鉄則２３ヶ条を」入れた＞

＜この日＞ＳＰ地下入り口の道をはさんで反対＜の建物に＞泊まる

Y　　フトンひく＜渡辺のために＞

仕事がある　出た＜職場に向かって＞

ねつけなかった

翌日　朝　Y　＜が来て＞フトン　たたんだ

自宅＜に戻り＞→小川＜へ＞ＦＡＸ＜で入手した＞２３ヶ条＜を送った＞

<小川へ電話して>「<２３ヶ条を>使ってもらっていいですが、名前を出さないで下さい」
——渡辺の

理由　○直属信徒——大人しくしてればいいが、小川のもとで情報収集<などの>積極的活動<をしていることを知れば>→大草　逆上

○<そうなると、まだ脱退しないで>Mの（内部にいる）仲間に圧力かかる

Y　に連れられSの青年部<の>会合<に出席したことがある>
方面別<に>「中部、沖縄」<などと呼ばれ、元気よく返事をしていた>　迫力
人数多い　ビックリした

盗聴文書

渡辺入手経路を聞く

X　帝国の社長　福田のムスコがやった。本人が自慢げに話した——渡辺に
——前妻の子ども
<そのムスコから>現場、行ってみるか<と言われた>
ラジオ局近い　盗聴大変<ムスコが言っていた>
請求書の日のほか１２月にもやった。

「本山に出す」<と書かれているファックスについて>
日頃の関与<について聞いただす>　オフレコ　まだ公にできない。
請求書　２種類ある
すべて大草<に渡した>　X ——正規料金
4件分　割りびき　２<通ある>

本山　出す分――正規料金　請求
４件――会員割り引き

　細かい経過　　話す気にならない

書面（内偵調査）――手書き
　　――ワープロ

大草＜から＞「手書きじゃダメ。表紙つけたもの＜を出させろ＞」指示＜された＞

宣　誰がやったか知らない
　＜宣徳寺の＞電話番号＜を帝国リサーチに＞教えた　２回線＜あると言われた＞
　＜盗聴＞テープ　大草に渡した――本部に保管
　＜テープの内容＞小川について
　　バカにしたような会話＜があった＞
　　――小川に報告
妙　盗聴しようとしたがダメ
　実費だけ請求
　＜前の日に＞辻のアパート　泊＜まった＞
　渡辺案内　辻　運転で山へ
＜辻は大石寺の＞広さにビックリ　ふつうの寺と思っていた
盗聴されていないか調べる名目
道に迷った――途中で渡辺イネムリ　遅れて小川＜に＞怒られた

裏塔中の奥――車とめた
内事部の応せつくで>小川に辻くを>紹介
小川、辻、渡辺で交カン室くへ行った>
小川、図面――製本したような大きなもの　もってきて見せた
「正本堂が建ったときのものくだから>ちょっと古い」
<電話交換室は>人の出入り多すぎ　ダメく電話盗聴器を仕掛けられない>

小川と別れる　辻と宗務院周辺くを見て回った>
<宗務院の>２Ｆから早セく眺覚>がニラム
裏塔中の車にもどる　着替えく辻>
<はじめに>理境坊――奥さん立ち合い――小川の
調査<電話盗聴されていないかどうか>　渡辺　外<で待っていた>

<理境坊のあと>妙泉坊へ
辻　「電柱がない」
「回線が地下を通っている」
マンホールにもぐる
<辻の説明>
大石寺<の電話回線は>地下<を通っているケーブルに>束ねてある
<そこに盗聴器を仕掛ければ>一発でバレる

どれが妙＜泉坊＞の回線か特定できない
直で＜妙泉坊に＞しかけるとアブナイ

逃境坊にもどる　辻　車でまつ
渡辺――くりで小川に報告

昼メシ　　どこで食べたかハッキリしない
　　食べたと思う。

辻の運転＜で渡辺の＞自宅＜へ＞帰る
――エイザブロウ
　　用心深い．ロッククライミング＜をやっていたらしい＞
マシラのように登るプロです――小川へ紹介＜したときに渡辺が言った＞
＜電話＞盗聴＜したときに＞住居侵入＜で＞北区滝の川署＜に捕まったことがある＞
福田から聞いた　＜辻は＞最後までは言わない＜と福田が＞ホメていた。

辻　栄三郎

名古屋の件　＜なんのことなのか＞さっぱりわからない。
　　請求書に書かれてても関心がなかった。
　　依頼したのは知らない
　　自分が依頼したかどうかおぼえなし
　　記憶にない。

小川の関与

　　オフレコにしてもらいたい。
　　小川批判＜をすると＞仲間＜が＞手錐＜の＞師匠失う。
　　＜小川の＞関与の事実関係　話せない

小川　顕正会のときから＜電話盗聴について＞知ってる
　　盗聴内容
　　報告――クリで　他は誰もいない　二人＜だけ＞

M登山＜のときに＞先に登山＜して＞報告＜した＞

＜渡辺が先に小川に報告したら＞
大草「報告したのか」――イヤミ

小川＜電話盗聴について＞　はじめ少し距離（を置いていた）→＜顕正会と＞ドンパチ＜やって＞日蓮＜が妙観講を＞ホメる　＜そのころから＞小川　変わる

今回の盗聴

Y　から聞いた話を大草へ――やる気　発端

宜、妙くは、身内のようなものだから、そこを電話盗聴するのは＞心配――渡辺
大草　話つけてくる　　＜その後＞ＧＯサイン＜が出たと大草に言われた＞
渡辺　小川に確認　小川　大丈夫
　　――正式依頼　　帝国
　　オフレコ

Ｈ５　小川＜の名前で＞文書＜が理規坊に貼りだされた＞　渡辺と接触するな
　　――自分知らないと言い逃れ＞
　＜渡辺＞抗議　　＜小川は＞取り合わない
　　＜小川の＞特命＜で学会側から情報を取ってきているのに＞頭にきた

Ｈ６？　仲間と登山＜したときに＞Ｍ＜から＞イヤガラセ＜を受けた＞
　　＜これについても小川に抗議したが＞小川　対処しない
　　ご開扉した

お歳暮　中元＜を小川に贈っていた＞
　　あるとき＜から＞拒否＜された＞

Ｈ８　自宅マンション

自宅マンション　ナタ＜を置かれた＞

小川へ電話＜した＞

小川「ｔｅｌ盗聴なかったんだよな」

渡辺〝Ｇのおおせのように正直に死んでいきましょう〟

S幹部＜の＞盗聴

あったことは認める。対象　言えない

自分が全部しってるわけじゃない

大草　Ｐ盗聴＜を＞H3夏ごろ帝国にもらかけた＜ことがある＞

福田　Ｐはとてもできない　他は可能かも

〝１０億＜で会＞社ごと買ってくれたらやる〟

本気？　ジョーダン？＜どちらかわからなかった＞

大草　あきらめる

福田　タイホ歴　ある

つかまるの平気

現行犯じゃない――ションベン刑

<福田が渡辺に>

裏切り者<は>山<に連れて行って>穴ほらせる<自分の背丈ぐらいまで掘ると>発狂<する>

地滴　勝ちどき――<電話盗聴に関する>報道<がされたころ>

帝国<から>――郵便<が来た>

情報もらした渡辺

さいばんする<と書いてあった>

渡辺→帝国　抗議の手紙<を送った>

<その>直後ナタ<がマンションの玄関前に置かれた>――新品　クイ<に打ち込まれていた>

<マンションの>管理人<が>発見　<警察に>通報――渡辺

現場検証

その前　帝国<の連中が>ウロウロ<していた>

福田の息子、もう一人

職質うけてるのみた

<警察の見解>

<クイに打ち込まれた>ナタ<は>落としもの<扱い>

指もんない

<J子の>日記

まちがいなく[redacted]のもの　堀川<という女子職員が同じ>寮<で>

ダスター<の中から>拾ってきた。

大草に渡しに言った　せいこ　ハルミ<が一緒に>いた。

<近所の>喫茶店<で話をした>

「全部みたのか」

「みた」

「みちゃったらしょうがないな」

<日記を>大草とりあげる。

[redacted]の件　<渡辺が必死に>もみ消し<たのに>

——大草<からは>感謝なし